五珠１個のそろばんがでてきた

中国から伝わったそろばんは五珠が２個で、日本でも江戸時代を通じて広く使われました。しかしなかには五珠１個のそろばんもありました。三重県の井上親亮所蔵の元和２年（1616）の貼り紙があるそろばんや、元和９年（1623）17歳の住友長入が使ったというそろばんは五珠が１個です。

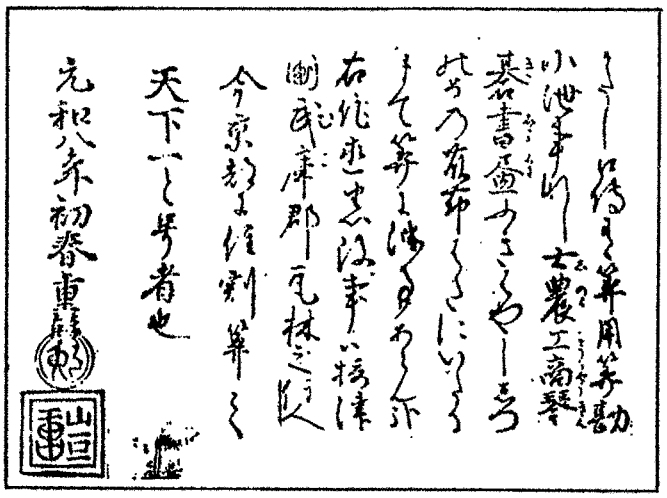
大津でそろばんが作られた

慶長17年（1612）、長崎にきた中国人の持っていたそろばんを大津（滋賀県）の片岡庄兵衛がもらい受け、そのときそろばんの製造方法も教えてもらい、大津でそろばんの製造をはじめたといわれています。江戸時代の大津はそろばんの主な生産地でした。

そろばんの本が発行されはじめた

発行年が分かっている一番古い珠算の本は、元和８年（1622）に毛利重能が書いた「割算書」です。また、龍谷大学で発見された著者不明の「算用記」という書物は、「割算書」より古いといわれています。

この２冊の本は内容がよく似ていて、わり算九九（前ページ参照）や日用数学の計算が書かれています。



「割算書」元和８年版巻末